

令和6年度以降の教養教育カリキュラムの編成について

教養教育カリキュラム（令和6年度から）

カリキュラム編成の方針

- 令和6年度から基礎教育を教養教育として文理横断的なカリキュラムに再編成する。
- 教養教育は「導入科目」、「課題発見科目」、「未来共創科目」で構成する。
- 「導入科目」は「大学教育入門セミナー」、「情報・データリテラシー」、「英語」、「専門接続系」の区分で構成し、大学で学ぶための心構えや自己の所属する教育課程の理解、高度情報化時代に対応できる情報処理能力、外国語コミュニケーション能力と専門教育において必要とされる英語運用能力、及び専門教育において必要とされる知識・技能を育成する。
- 「課題発見科目」は「データサイエンス系」、「人文・社会・芸術系」、「自然・生命・技術系」、「地域・国際・学際系」で構成する。本学の第4期中期目標の一部に記載されている「視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する」の部分の達成するため、及びSTEAM教育プログラムを構築する上で中核となる科目群である。
- 「未来共創科目」は「構想・デザイン系」と「協働・創造系」で構成する。SPARC教育プログラムの中核となる科目群で、地域や世界を見る目や幅広く長期的な視点で社会課題に向き合う態度、及び地域をフィールドに様々なステークホルダーと連携したPBL(プロジェクト ベースドラニング)やアントレプレナーシップを通じて、学生同士だけではなく社会人や地域住民等と協働・共創する力、企業内・地域内の具体的な課題の解決策を提示する力を育成する。
 そのために、教養、専門分野双方から科目を配置し、学部を横断した履修や、連携開設科目として連携大学の学生が履修できるようにする。これにより、「課題発見科目」で育成する資質・能力を高度に発展させることを目指す。
- 教養教育では、SPARCプログラムを深く学修する学生を対象とする発展的なプログラムとして、「SPARC教育プログラム」を設定する。

カリキュラム編成

令和6年度以降の教養教育カリキュラムの構成

	科目群	系列	配当年次	科目群の位置づけ	
教養教育	導入科目	大学教育入門セミナー	1前	【基礎】 大学教育の基礎的な素養を育成	
		情報・データリテラシー（情報倫理を含む）	1前		
		英語（外国語コミュニケーションを含む）	com		1前・後
			ESP		1~2
		専門接続系		1~2	
	課題発見科目	データサイエンス系		1後~4	【文理横断】複合領域 文理横断の学修を通じて多様な課題を発見し幅広い教養を身に付ける
		人文・社会・芸術系		1後~4	
		自然・生命・技術系		1後~4	
		地域・国際・学際系		1後~4	
	未来共創科目	構想・デザイン系 （キャリアを含む）	低年次	1~2	【分野横断】学部横断 他分野の知見に触れることで、高い教養を身に付ける
			高年次	3~4	
		協働・創造系	低年次	1~2	
高年次			3~4		

- 課題発見科目は文理横断的な科目群からなり、それぞれの領域において多様な課題を発見し幅広い教養を身に付ける
- 未来共創科目は「構想・デザイン系」と「協働・創造系」からなる。
 「構想・デザイン系」において、地域はもちろん、国際的にも活躍する人材のキャリア形成・変化・将来展望に関する学びなどを通して、地域や世界を見る目、能動的に社会に向き合う姿勢、幅広く長期的な視点で社会課題に向き合う態度を身につけることを目指す。また、課題発見、解決に必要な研究の視点や手法、思考法(デザイン思考等)なども学ぶことでプロジェクトをデザインするための力を育成することも目指す。
 「協働・創造系」において、地域をフィールドに様々なステークホルダーと連携したPBL(プロジェクト ベースドラニング)やアントレプレナーシップを通じて、学生同士だけではなく社会人や地域住民等と協働・共創する力、企業内・地域内の具体的な課題の解決策を提示する力を身に付けることを目指す。

教養教育カリキュラム

区分	科目群		配当年次	教育学部		*医学部			*工学部		*農学部		地域学部		
					★	医学科	看護学科			★		★	★		
								★							
教養教育科目	導入科目	大学教育入門セミナー	1 前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
		情報・データリテラシー (情報倫理を含む)	1 前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		英語 (外国語コミュニケーションを含む)	com	1 前・後	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
			ESP	1~2	2	2	8	6	6	4	4	4	4	4	4
		専門接続系		1~2	10	10	9	6	6	4	4	4	4	8	
	小計				20	20	25	20	20	16	16	16	16	20	
	課題発見科目	データサイエンス系		1 後~4	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
		人文・社会・芸術系		1 後~4	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
		自然・生命・技術系		1 後~4	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
		地域・国際・学際系		1 後~4	②	②	②	②		②	②	②	②	②	
	小計				14	10	8	8	6	18	12	18	12	12	
	未来共創科目	構想・デザイン系 (キャリアを含む)	低年次	1~2	2	2	2	2	4	2	2	2	2	2	
			高年次	3~4		2				2		2		2	
		協働・創造系	低年次	1~2		2			2*		2		2	2*	
			高年次	3~4		2*			2*		2		2	2*	
小計				2	8*	2	2	8*	2	8	2	8	8*		
単位数計				36	36	35	30	30	36	36	36	36	36		

★は SPARC を深く学修する学生が履修するカリキュラム (SPARC 教育プログラム)

* ②はその系列から 2 単位を選択必修とする。

* 「データサイエンス系」の「データサイエンス入門」は遠隔科目として全員が 2 単位履修する。

* 「自然・生命・技術系」の「環境と生命」は全員が 2 単位履修する。

* 未来共創科目に配置する専門分野の科目は、学生が自ら他専攻の科目を分野横断 (学部横断) 的に履修できる科目とする。教養を高めるという目的に則り、学生は分野横断的に履修する単位が合計 4 単位を超えないようにする。単位修得及びオブザーバーとしての聴講を認める。

SPARC 教育プログラム (未来共創科目一覧)

未来共創科目	構想・デザイン系 (キャリアを含む)	低年次	1~2	地域キャリアデザイン I (キャリア) 地域キャリアデザイン I (地域) 地域キャリアデザイン I (プロジェクト設計) 地域キャリアデザイン I (国際)
		高年次	3~4	地域キャリアデザイン II
	協働・創造系	低年次	1~2	SPARC プロジェクト実践 I (実践型) SPARC プロジェクト実践 I (提案型) SPARC プロジェクト実践 I (授業づくり協働体験学習) SPARC プロジェクト実践 I (ひむか看護論) SPARC プロジェクト実践 I (国内インターンシップ or 海外短期研修)
		高年次	3~4	SPARC プロジェクト実践 II (起業型) SPARC プロジェクト実践 II (事業変革型) SPARC プロジェクト実践 II (共創型) SPARC プロジェクト実践 II (地域教育コラボレーション) SPARC プロジェクト実践 II (在宅ケア実習) SPARC プロジェクト実践 II (地域活性化システム論)

令和6年度以降教養教育カリキュラム分野系の概要(「課題発見科目」及び「未来共創科目」)

<p>1. データサイエンス系 情報処理能力の育成とともに、ものづくりの分野の着実な履修と学修の定着を目指す。 【授業科目例：データサイエンス入門、データサイエンス応用、データサイエンス分析実践、統計データによる地域課題分析、Pythonプログラミング演習、統計学入門、情報科学など】</p>
<p>2. 人文・社会・芸術系 人文学や社会科学、芸術の知見に触れて俯瞰力を育成し、学部混成クラスによるグループディスカッション等を通じて現代社会の課題に関する理解を深めることを目指す。 【授業科目例：生と死の倫理学、現代社会と歴史、音楽と文化、美術と文化、風土・地域と人間、現代社会と家族、現代社会と子供・青年など】</p>
<p>3. 自然・生命・技術系 自然科学を中心に自然・生命・技術の知見に触れて科学的思考力を育成し、学部混成クラスによるグループディスカッション等を通じて自然環境や生命科学、先端技術等の今日的課題について理解を深めることを目指す。なお、基礎教育科目の「環境と生命」については、その実績を継承して令和6年度以降も当面は従来通りに開講する。 【授業科目例：環境と生命、科学技術と私たちの生活、日本の自然と災害、生命科学研究入門、人体の構造と機能など】</p>
<p>4. 地域・国際・学際系 俯瞰的に地域課題に関する理解を深めることを目指す科目群、英語以外の言語の習得と言語に関連した文化について理解を深めることを目指す科目群、より高度な英語運用能力を育成する科目群、学際的な内容で生涯学習に深く関わる科目群から成る。特に地域・国際の科目群については、未来共創科目と連動させながら SPARC カリキュラムもとづく地域課題に関する俯瞰力と構想力の育成を目指す。 【授業科目例：宮崎の郷土と文化、九州学、宮崎の産業と産学地域連携、教養ドイツ語、教養フランス語、教養中国語、教養韓国語、博物館概論、生涯学習論、健幸予防医学など】</p>
<p>5. 未来共創科目（構想・デザイン系） 地域はもちろん、国際的にも活躍する人材のキャリア形成・変化・将来展望に関する学びなどを通して、地域や世界を見る目、能動的に社会に向き合う姿勢、幅広く長期的な視点で社会課題に向き合う態度を身につけることを目指す。また、課題発見、解決に必要な研究の視点や手法、思考法（デザイン思考等）なども学ぶことでプロジェクトをデザインするための力を育成することも目指す。 【授業科目については前頁の表を参照】</p>
<p>6. 未来共創科目（協働・創造系） 地域をフィールドに様々なステークホルダーと連携した PBL（プロジェクト ベースラーニング）やアントレプレナーシップを通じて、学生同士だけではなく社会人や地域住民等と協働・共創する力、企業内・地域内の具体的な課題の解決策を提示する力を身につけることを目指す。 【授業科目授業科目については前頁の表を参照】</p>

* 表中に例示した授業科目名は今後変更されることがあります。

SPARC事業で新たに構築する未来共創科目履修モデルイメージ

1年

構想・デザイン系科目 (1科目選択 2単位)

地域キャリアデザイン I (キャリア)

ねらい

地域で活躍する魅力的な人材のキャリア形成・変化・将来展望等を学ぶことを通じて、**地域・社会に向き合う視点や姿勢、実働について学ぶ。**

手法

講師と教員とのトークセッションで話を聞く、自身でキャリアプランを作成するワークに取り組む等

地域キャリアデザイン I (地域)

ねらい

県内の各産業分野等における現状と課題、これまでの取組の成果や問題点、今後の発展可能性、そして産業に関する横串(イノベーション、産業連関等)などを学ぶことにより、**地域の経済をけん引する幅広い視点を身に付ける。**

手法

講師と教員とのトークセッションで話を聞く、地域を研究する手法や思考プロセスを学ぶ等

地域キャリアデザイン I (国際)

ねらい

多様で複雑な社会課題に対して、国内外で様々な取り組みがなされてきた(取り組まれている)社会・経済・都市政策等について、その理念、具体的な戦略・戦術、成果・課題・今後の可能性等を学ぶことで、**より広く・深い視野でプロジェクトに取り組む力を身に付ける。**

手法

様々な取り組みの座学、事例研究、実践者を講師とした学び、現地調査等

地域キャリアデザイン I (プロジェクト設計)

ねらい

ロジカル思考、システム思考、デザイン思考等、プロジェクトをデザインし、共創するために必要な基本的な視座・スキルを学ぶ。

手法

座学・ワークショップ、フィールドワーク

2年

協働・創造系科目 (1科目選択 2単位)

SPARCプロジェクト実践 I (実践型)

ねらい

1~2か月程度の企業・行政等における課題解決型プロジェクト実践。具体的な目標をもって実務または実務に関わる実践活動に臨むことで、さまざまな課題や問題を体感しながら、**社会人として求められる能力を的確に理解し、自ら考え行動する力を身に付ける。**

SPARCプロジェクト実践 I (提案型)

ねらい

市町村や企業と連携して設定したテーマについて、企業人、行政関係者等との協働プロジェクトを構築・提案しながら、**社会人として求められる能力を的確に理解し、自ら考え行動する力を身に付ける。**

3年

構想・デザイン系科目 (1科目選択 2単位)

地域キャリアデザイン II

ねらい

地域で活躍する魅力的な人材のキャリア形成・変化・将来展望等を学ぶことを通じて、**地域・社会に向き合う視点や姿勢、実働について学ぶ。**

手法

2年次までの学修などを踏まえ自身のキャリアプランについて整理し、表現する。

4年

協働・創造系科目 (1科目選択 2単位)

SPARCプロジェクト実践実習 II (起業型)

ねらい

自ら主体的・積極的に価値を創造する力を身につけることを目的とする。そのために起業(事業創出)できる身につける。

SPARCプロジェクト実践実習 II (事業変革型)

ねらい

地域企業を取り巻く環境の変化に対応した**既存事業の変革**を基に、**新規事業立案の手法**を学ぶとともに、事業変革の知識を習得する。**地域の即戦力**となる思考を育成する。

SPARCプロジェクト実践実習 II (共創型)

ねらい

自ら主体的・積極的に価値を創造する力を身につけることを目的とする。そのために、特に他者・他組織等との協働・共創を促す「コーディネーション力」身につける。

SPARC 学生が卒業研究等を地域・社会に対して発表し、ディスカッションする「成果報告の場」を設定

『未来共創人材』の輩出

- 時代の変化に目を向け、柔軟に戦略立案・意思決定できる人材
- 事業拡大やイノベーションに挑戦し企業や地域等を支える人材
- 自ら主体的・積極的に価値を創造するチャレンジシマインドを持った人材
- 横断的で広い視野を持ち、多様な人と繋がり巻き込むことのできる人材

構想・デザイン系科目

- 地域を見る目、能動的に社会に向き合う姿勢、視座を学ぶ
- 幅広い、長期的な視点で社会課題に向き合う力を磨く
- プロジェクトをデザインするために必要なスキルを身に付ける
- グループで革新的なプロジェクトを構築する力を磨く

協働・創造系科目

- 学生同士だけではなく、企業人、地域と共創する力を磨く
- 企業内、地域内の具体的な課題に対し、具体的な解決策を提示する力を身に付ける
- ステークホルダーを巻き込み、プロジェクトをマネジメントする力を磨く